

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700104		
法人名	医療法人 慈風会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームみやざき		
所在地	福井県坂井市三国町北本町2-2-6		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成 28 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設も今年で丸5年を迎えます。入所者の顔ぶれも変わってきていますが、生活を共にする事で、家庭的な雰囲気を持ち、その中で個々に合った支援を心がけています。病院内に併設である為、医療的な面でもご本人、ご家族も安心して過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はえちぜん鉄道三国駅に近く、また商店や公共施設があり利便性が高い場所にある。事業所は母体法人である病院の2階部分にあり、1階には外来、2階には事業所とデイサービスセンター、3階には入院病棟がある。病院待合室には利用者が作成した作品を季節ごとに展示し、事業所の理解につなげている。知人が外来受診後に訪れたり、デイサービスの利用者が面会に訪れたりする事もあり、利用者は日常的に馴染みの人々と交流ができています。職員は事業所の理念である「愛情をもって接し、毎日たくさんの笑顔が見られるような介護支援を提供します」を心掛け、利用者本人と家族の絆を大切にしながらサービスを実践している。母体法人が医療法人であるため、日常生活上の健康管理や重度化、急変時にも迅速に対応でき、利用者、家族ともに安心して過ごせる環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念の共有により、職員が理念にそっての実践に努めています。	法人理念とは別に事業所独自の理念として「愛情をもって接し、毎日たくさんの笑顔が見られるような介護支援を提供します」を作り、職員一人ひとりが理解して、日々利用者に関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に行事の情報など収集し、参加する事で交流を深めています。	自治会に加入し、三国祭など地域の行事に参加している。母体法人の病院の外来ホールには、利用者の作成した作品が季節ごとに飾られ、知人が受診時に面会に訪れることも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流に参加する事によって認知症への理解を頂ける様心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、現状報告とサービス提供の状況について報告、その中から意見を頂きそれを今後のサービス向上に活かせる様努めています。	2か月に1回、民生委員、家族代表、広域連合職員、地域包括支援センター職員、法人代表者が参加し、事業所の取組み等の報告や話し合いを行っている。	地域の理解を得るためには、民生委員だけでなく区長や自治会長など地域住民代表者にも参加を働きかける取組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った事や疑問があった時には電話ですぐ問い合わせ、推進会議時に地域包括の方相談しています。	運営推進会議には広域連合職員が開設当初から参加しており、必要に応じて相談し、助言・指導を受けている。また新たに開設した地域包括支援センターとの協力関係の構築にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていませんが、常に見守りを重視しています。日中は入り口に人の出入りを知らせるチャイムが鳴ります。夜間にみ入り口の施錠をしています。	母体法人で身体拘束防止の研修を行っているため事業所独自の研修は行っていないが、日々のミーティング等で振り返り、認識の共有を図っている。リスクについても家族に説明し、話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の知識をもとに虐待のない介護に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、成年後見人制度の理解に努め必要なときには、関係者とも連携を取りながら対応できるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人、ご家族との話し合いにて、契約書の内容について、不安なく納得して頂ける様説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院全体での意見箱は設置してあります。ご家族からのご意見、要望などは面会時などにお聞きする事が多く、その都度運営に反映させるようにしています。	家族の面会時に気兼ねなく話せるような雰囲気づくりを心掛け、職員全体で要望や意見を聞くようにしている。聞き取った内容は記録に残し、ミーティングで話し合い、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議は行っています。運営に対する職員の意見や提案を聞きそれを話し合い反映させる様にしている。	月1回スタッフ会議を行い、運営に関する職員の意見や提案は、管理者から理事長に伝え、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップを促し、外部研修への参加の機会を持てる様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や行事への参加を促し、個々に参加した研修内容を報告してもらい技術の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会はあまりなく、市での開催などでの参加程度で、その後の繋がりを続ける事が課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時には、ご本人の困っている事とか不安な思いを聞かせて頂き、安心して頂けるサービスを提供するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時の、ご家族の困っている事や要望などを聞き安心して頂ける様関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設での対応が困難になった場合にはご家族との話し合いと理解を得た上でサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じた関係を築きながら、一緒に暮らす物同士として、支えあえるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には現状を伝える事により、日頃の様子や、ご本人の思いも知って頂き、一緒にご本人を支えていける様な関係を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのスーパーや美容室など馴染みの場所やディケアへの訪問など顔見知りの方との縁が途切れないよう努めています。	馴染みの美容院やスーパーを利用したり以前利用していたデイサービスセンターを訪問し、知人と会う機会を作ったりしている。遠方の親族等の面会時には、利用者と一緒に写真を撮り、部屋に飾る等つながりが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見極め、利用者同士が共有して楽しめる事などを提案し支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、併設の病院や、外来への受診などでお会いする事もあり その後のご家族との関係も引き続き大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃ご本人との会話や、ご家族からの情報をもとに思いを反映させるようなサービスの提供を心掛けています。	日々の会話の中で、思いや要望の把握に努め、聞き取った情報は記録に残している。把握が困難な場合は家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の支援の中でこれまでの暮らし方や環境などを聞き取り、ご家族からの情報も収集し今後のサービスに繋げたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、バイタルにて、体の状態の把握、日々の関りの中で職員全員が周知出来るよう、記録、申し送りにて現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、関係者等のカンファレンスで得た意見を反映させた介護計画の作成を行っています。	3か月に1回、病院での定期検査があり、主治医、家族、ケアマネジャーを交えて話し合っている。また、利用者の担当職員がケアマネジャーに日々の状況、課題を報告し、ケアプラン作りに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有し実践状況についても話し合い介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に応じた対応を常に心掛けており、その時に生じるニーズにも柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院内にある事で、医療面での精神的な安心も得られ、日々の暮らしも楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診を受けることで、体調管理もできており、その都度適切な医療が受けられるよう支援しています。	利用者は希望するかかりつけ医を受診することができる。その際、家族の同行や医療機関、家族、事業所間の情報の共有方法等について話し合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来看護師には日々の状態を常に伝えているので、利用者様の異常や苦痛の訴えにも適切に対応できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に併設している事で、日頃より外来看護師との連絡も密にできており、利用者様が安心して治療が受けられるよう外来看護師を通じて医師との関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入所時にも説明し、ご家族の意向も聞かせて頂き必要な段階になった時にはご家族、主治医他関係者との話し合いを持ち支援に取り組んでいます。	入所時に重度化した場合や終末期の意向を確認した上で、医師、職員が連携を取り、安心した終末期が迎えられよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。同じ建物内に病院があるため、連携体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、実践力を身につけるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の病院とともに、消防署の指導の下避難訓練を行っています。災害時は消防署の全面的な協力体制を築いています。	年2回、夜間の火災を設定した避難訓練を法人全体で行っており、消防署の指導も受けている。法人として非常食の備蓄もある。	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、日ごろより地域住民や警察署、消防署との連携を図りながら、協力体制を築いていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声掛けにも注意し、入浴や排せつの際のプライバシーにも配慮し対応に注意しています。	入浴や排泄の際には、利用者のプライバシーに配慮するよう心掛けている。職員は利用者一人ひとりの人格を尊重しながら、さりげない言葉掛けや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、自己決定に結びつける。表情やしぐさなどから思いをくみ取るよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望を尊重し、本人のペースで日々を過ごして頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪などは近くの美容室まで出掛けて行きます。本人の好みを優先し支援しています。入浴時の着替えの用意は本人と相談してきめています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は病人食を提供していることもあり、好みのメニューとはいかないが、月一度の食事会や外食なども計画し、職員と共に楽しんでいます。また準備や片付けなどもしています。	母体法人の厨房で調理された作りたての食事を提供している。食事を楽しむために、定期的に利用者と職員と一緒に調理をしたり、外食したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録しています。水分の摂取には特に注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、個々の力に応じた口腔ケアの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつは出来るだけトイレで行えるよう支援し、個々の排せつパターンを見極め、声掛け誘導しています。	個々の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレに誘導している。夜間オムツを使用している場合も、日中はリハビリパンツで過ごすことで、トイレでの排泄ができるよう取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因を理解し、運動や水分摂取を促し、便秘薬なども取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴の利用となっていますが、全員が介助を必要としているので、入浴時間は決めずその日のタイミングをみて午前、午後での対応をしています。	基本的に週2回、個浴での入浴をしている。利用者一人ひとりのペースに合わせた入浴ができるよう心掛けている。ゆずやミカンの差し入れがある場合は、浴槽に入れて、楽しい入浴になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで自由に過ごして頂き、夜間は居室の温度調整をし気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬のリストをファイルに綴じてあり、職員が確認できるようにしています。服薬の支援と症状の変化についても注意するよう心がけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生きがいや趣味などを楽しんだり希望に沿った気分転換にも対応できるよう支援します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望を聞き、家族の協力を得ながら出かけています。季節行事としての外出も取り入れています。その様子などホーム内に貼ったり、ご家族への広報として配布しています。	利用者の希望に沿って近く的美容院やスーパーに出かけたり、近くの海岸をドライブしたりしている。本人の希望を家族に伝え、協力を得る場合もあり、本人の思いを把握するように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方はご自分で管理されています。その他のかたでも必要時にはご家族と相談して対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知り合いの方への電話、手紙などいつでも希望される方にはその都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では利用者様の作品を展示したり、ソファなどでくつろいだり出来るよう工夫している。外出時の写真などを飾り、思い返したり出来るよう工夫しています。	共用空間には季節が感じられる手作りの作品が多く展示され、大きなソファもあり、ゆったりくつろげるように工夫されている。共同のトイレ、浴室、洗面台はすっきり整理されており、清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の空間ではソファなどを置き、自由に過ごしDVDやカラオケを楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物をもって来られたり写真や好きな音楽をかけたり、ご家族とも相談し心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室には大きな窓があり、明るい。ベッドやクローゼットは備え付けだが、テレビなど使い慣れた家具や用品を持ち込んだり、面会者と撮った写真を飾ったりするなど居心地よい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りの中、個々の出来ることは分担して安全に作業が出来るよう努めています。		